

利用者の作品をより良く「魅せる」ポートフォリオ の作成



目次

- 1、テーマ
- 2、テーマ設定の理由
- 3、研究の目的（ねらい）
- 4、研究の仮設
- 5、研究内容と方法
- 6、研究実践
- 7、研究のまとめ
- 8、今後の課題

1、テーマ

- ・利用者の作品をよりよく「魅せる」ポートフォリオの作成

(1)「ポートフォリオとは何か？」

- ・ポートフォリオとは？－三省堂辞書サイトより引用－
「画家、写真家、デザイナーなどが自分の作品を整理してまとめたもの」
「モデルが自分の写真を入れるもの」
- ・作品を写真撮影し、クリアファイル等にまとめたもの。
- ・ファイルのサイズは A3 や A4 が一般的に使われることが多い。
- ・ページ数は 20～40 ページが一般的。
- ・クリアファイルが手軽に使用できるが、ポートフォリオで個性を出したいときはスケッチブックを使用したり、製本するといった方法がある。

(2)「ポートフォリオは何に使うものか？（静山園で考えられる使用方法）」

- 例 1) 美術館、ギャラリー等の展示会で展示する。
- 例 2) 展示会の取材をマスコミに依頼する際、マスコミからポートフォリオの提出を求められたときに提出する。
- 例 3) 特別支援学校の生徒等、これから静山園の利用を検討する方の見学の際、生活介護の日中活動を知っていただくために使用する。
- 例 4) 地域での販売の会場で展示する。

2、テーマ設定の理由

- ・このテーマを設定した理由は次の2つである。

静山園の生活介護の作業科（窯業科）では、利用者が陶器やビーズアクセサリーの制作に取り組んでいる。作品制作の現場では、利用者の作品の完成度を上げることに目が向けられがちのように私は感じている。そのため、時折作品の完成度を上げるために職員が利用者に手を貸すこともある。もちろんそれも作品制作のなかで重要なことかもしれないが、職員が利用者の作品の持ち味を取り去ってしまうのではないかと私は考える。職員が利用者の制作に手を貸さずに、作品を魅力的に魅せる方法を、写真撮影を通して考えたいと思った為、このテーマを設定した。

次に、作品が立体で用途がある場合は、作りっぱなしで終わるのは良くない。作品をどのようなシチュエーションで使うのかまで考えて初めて完成と言える。

- ・ポートフォリオ制作には、次のようなメリットがあると考える。
- ① 作品の写真は何枚も撮ることで、作品をさまざまな角度から見つめることができ、その作品の魅力を客観的にとらえることが出来る。(完成した作品のどこが良くできて、どこが失敗だったか、振り返りを行うことができる。)
 - ② 平面デザインや空間デザインの勉強になる。(1冊のポートフォリオそのものが作品ととらえられても過言ではない。)

- ③ 作品の展示方法について、ポートフォリオを通してさまざまなシチュエーションを見た人に提案できる。
- ④ 自信のある作品を何ページでも使って見せられる。
 - ・ポートフォリオ制作は一見、作品制作の二の次に考えられがちだが、作品の見せ方について最後まで考え抜いたり、完成した作品の振り返りをじっくり行いたいと考えた為、本テーマを設定した。

3、研究の目的（ねらい）

- ・今回の研究では静山園生活介護窯業科の利用者が制作した陶器とビーズアクセサリーの「魅せ方」について以下の6つの観点から研究する。
 - ① 素材の持ち味を引き出している撮影方法か。
 - ② 作品に対して、適切な構図か。
 - ③ 作品の展示方法は作品の魅力を引き出している展示方法か。
 - ④ 複数の作品を同じ画面（同じ展示台）に展示する場合、「立体」がより「立体的」に見える配置であるか。
 - ⑤ 作品の背景は適切か。
 - キャプションのフォントは適切か。
- ・撮影した写真はポートフォリオとしてまとめ、販売や展示の会場で使用する。

4、研究の仮説

- ・作品の撮影には、白の背景紙を使用し、背景をシンプルにした状態での撮影と、実際に作品を使用しているときの写真を撮影すると、見た人が作品の用途について想像を膨らませられるような写真になるのではないか。
- ・ポートフォリオはクリアファイルに綴じるのではなく、表紙をつけて製本するとより印象的に仕上がるのではないか。
- ・ビーズアクセサリー展示専用の箱を作り展示すれば、ビーズの素材感が引き立つ写真が撮れるのではないか。

5、研究内容と方法

- ① 白い背景紙を使用し、ビーズアクセサリーを撮影する。
- ② 白い背景紙を使用し、陶器を撮影する。
- ③ ビーズアクセサリーを実際に身に着けている様子を撮影する。
- ④陶器を実際に使用している様子を撮影する。
 - 例) ・夢明かりはライトを点灯させ撮影する。
 - ・花器は花材を生けて撮影する。
- ⑤陶器の撮影には陶芸館の木製の展示台を使用する。
- ⑥ビーズアクセサリー展示専用の箱を作り、ビーズがより魅力的に見える写真を撮影する。

6、研究実践

- (1) 窯業科工芸班ビーズアクセサリ専用展示箱の制作。
- (2) 窯業科工芸班ビーズアクセサリの写真撮影。
- (3) 窯業科窯業班 M, H さんと M, S さんの陶芸作品の写真撮影
- (4) 各ページのレイアウトとキャプションのフォントを決める。
- (5) 印刷と製本を行う。

(1) 窯業科工芸班ビーズアクセサリ専用展示箱の制作

・ビーズアクセサリをいきなり撮影する前に、ビーズアクセサリの効果的な展示方法について考えたいと思った。以下の写真が現在静山園で使用しているビーズアクセサリのホルダーである。



上の写真の展示方法だと

- ・白い格子とフックがビーズよりも目立っている。
- ・ビーズの指輪を重ねて展示している為、ビーズの色が見えづらい。
- ・たくさん展示すればするほど、ビーズの色が生きない。

といった問題点があるように感じた。

そこで、上の問題点を改善できるビ

ーズアクセサリ専用展示箱を作りたいと思った。

ビーズアクセサリ専用展示箱の制作

・材料

木材：300×600×5 (mm) の板 1 枚

294×30×3 (mm) の板 6 枚

600×30×3 (mm) の板 2 枚

好みで、レース、ペンキ

・道具：木工パテ、木工ボンド

あらかん

ペンキ用刷毛

紙やすり (240番～320番)

定規

ホッチキス

・制作手順

- ① 300×30×3 (mm) の板 2 枚と、600×30×3 (mm) の板 2 枚の両端を、あらかんと紙やすりを使って 45 度に削る。

- ② 箱の形になるように組み、木工ボンドで接着する。木工ボンドが乾燥するまでは、ホッチキスで仮止めし、固定しておく。ボンドが乾燥したら、ホッチキスの針を外す。隙間があいた箇所は、木工パテで埋める。

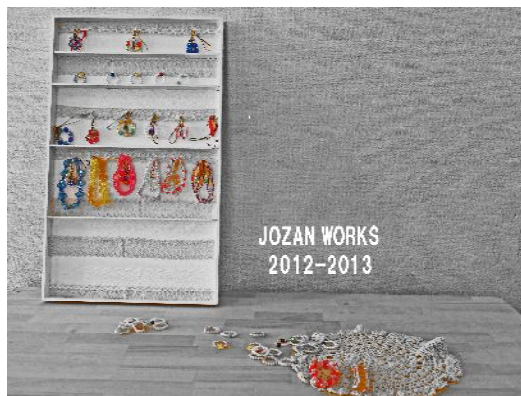
- ③ 294×30×3 (mm) の板を、ビーズアクセサリーの大きさに合わせて、箱に接着する。
- ④ ペンキを塗り、乾燥したら好みにレースを木工ボンドで貼り、完成！！（写真下）



- ・ストラップをレースの穴にひっかけて展示した。
- ・上の写真は、2014年2月22日（土）に、コープあてのりで開催された「福祉まつり」で実際に使用したときのもの。箱の下段のスペースを広めに作り、ホームспанや刺し子のコースターも飾れるようにした。

②窯業科工芸班ビーズアクセサリーの写真撮影

- ・①で制作した箱を使って、ビーズアクセサリーの写真撮影を行った。（写真下）



- ・表紙（上）は写真加工ソフト Photoshop Elements5.0 を使用し、以下の手順で写真加工を行った。

ビーズアクセサリーの色彩を強調するために、それ以外の彩度を落とし、画面を白黒にする。

中間色のコントラストを濃くし、箱に立体感を持たせる。また、レースの繊細な素材感も強調された。

ビーズアクセサリーの赤みを強調し、色鮮やかに見せる。作品の邪魔にならない程度に、文字を入れる。

- ・また、静山園の利用者に協力して頂き実際にビーズアクセサリーを身につけての撮影をおこなった。



- ・上の写真はカメラの色温度設定を変え、黄色と赤を強調した色彩で撮影を行った。その後、Photoshop Elements5.0 を使用。画面にバランスよく写真が納まるよう、写真をトリミングしている。

(3) 窯業科窯業班 M, H さんと M, S さんの陶芸作品の写真撮影

—窯業科窯業班 M, H さんが制作した陶器—



- ・ 作品概要
- ・ サイズ 82×82×180 (mm)
- ・ 技法 (板づくり、手びねり成形)
- ・ 陶土 (古信楽白土、古信楽赤土)
 - ・ 瑠璃釉 (石灰透明釉、酸化コバルト、粘土)
 - ・ 使用窯 EK 3 0 KW
- ・ 焼成温度 1250℃ (10 分保持)、酸化焼成
- ・ 特徴：花器と夢あかりの 2 通りの用途が期待できる。外側はウサギのクッキー型で型抜きした粘土どうしを接着している。粘土どうしの接着面が狭いため、接着と乾燥、施釉の際の水分バランスに技術を要する。内側には筒状の花器が収まっている。安定性のある釉薬を施釉しており、釉薬の厚掛けによって土どうしの接着を補強している。ウサギの型の接着面に釉だまりの美しさが印象的な作品。

・ 撮影方法

- 1 白い背景紙を使用して、撮影する。
- 2 花を生け、花器として使用している所を撮影する。
- 3 夢明かりとしてライトを点灯させて撮影する。

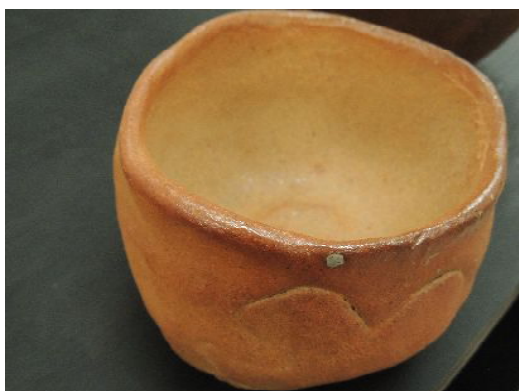


- ・ (撮影方法 2 より) 植物を生けた写真と、(撮影方法 1 より) 白い背景紙を使った写真とでは、作品の印象が変わった様に感じる。
- ・ 白い背景紙を使用すると、作品が無機質に見える。一方、植物を生けると、作品の温かみが一気に増した印象を受ける。
- ・ 白い背景紙を使用した写真は、作品の影が右の写真よりも明確に映っており、立体的に作品を見せる事が出来ている。
- ・ 尚、撮影方法 3 の<夢明かりとしてライトを点灯させて撮影する>は電球と電気コードを通せるほどの隙間が、陶器に置いておらず断念した。他の作品で夢灯りの写真撮影を行った。



制作 M, H さん (写真上)

-窯業科 M.S さんの陶器の写真撮影-



・作品概要

- ・サイズ 112×112×90 (mm)
- ・技法 (手びねり成形)
- ・陶土 (古信楽白土、古信楽赤土)
- ・灰釉、焼き締め
- ・使用窯登り窯
- ・焼成温度 1250℃ (10分保持)、還元焼成
- ・特徴：器表面に、M.S さん独自の模様がある。釉薬は基本的に無釉であるが、上り窯で焼成したため、意図していなかったところに、灰がかかっている。又、炎の跡が見え、上り窯の特徴がよく出た作品と言える。

・撮影方法

1 花器として、植物を生けて撮影する。

2 黒い展示台に置いて撮影する。



- ・撮影方法 1、2 の通りに撮影を行った。
- ・左右ともに同じ作品を撮影したが、展示する台が違うだけで全く違う印象となった。

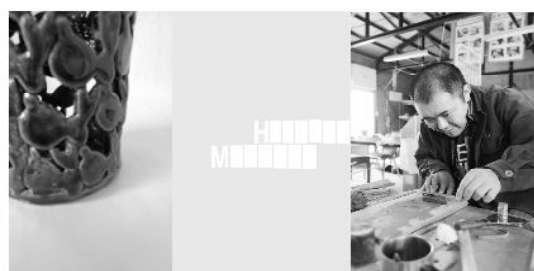
・黒い展示台を使用すると、作品の重みが一気に増したように見える。

・一方、植物と一緒に肌色の展示台に置くと、手びねりによる土の表情が強調され、柔らかい印象の作品になる。

④ 各ページのレイアウトとキャプションのフォントを決める。

・制作者紹介ページについて

レイアウト例) 窯業科窯業班・MH さんの紹介ページ



・ポートフォリオには、ただ作品の写真を載せるだけでなく、誰が制作した作品かを表す「作者紹介のページが必要だと思った。夢中になって陶器を制作するMH さんの様子が伝わるようなページを目指した。

次の写真はMH さんの、加工前 (左) と加工後 (右) の写真である。



写真加工ソフト Photoshop Elements 5.0 を使用し、以下の手順で写真加工とレイアウトを行った。写真の彩度を最低にして、画面を白黒にする。写真のハイライトと中間色のコントラストを強調し、人物の顔の陰影を濃くする。これにより、画面上の人物の存在感が際立つ。

・次に、MHさんの写真と、名前と、作品を画面にバランスよく配置する。画面を全てモノトーンにすることで次のページから紹介されるMHさんの作品がどんな作品か、期待しながらページをめくることができる。

フォント例) ビーズアクセサリーの価格紹介ページ



・写真の横に配置する、キャプションのフォントと色彩を決める際は、画面全体の雰囲気を変えないものを選ぶ。

例) **ビーズの指輪 (HG 創英角ポップ体)**

ビーズの指輪 (HG 教科書体)

ビーズの指輪 (MS 明朝)

ビーズの指輪 (HG ゴシックM) (使用したフォント)

ビーズの指輪 (HG 丸ゴシック)

- ・HG 英角ポップ体は文字が太く、主張が強すぎる印象。
- ・HG 教科書体は作品写真と並ぶと落ち着いた印象。
- ・MS 明朝体は無難で無機質な印象。
- ・HG ゴシックMは親しみやすい印象。
- ・HG 丸ゴシックは親しみやすすぎる印象。

それぞれのフォントに良さや難点がある。HG ゴシックMが一番ビーズの雰囲気にあっている印象を受けたため、このフォントを選んだ。また、フォントの色が

黒だと、主張が強く、ビーズアクセサリーのかわいらしい雰囲気にあっていないため、グレーを選んだ。

⑤印刷と製本を行う。

・撮影した写真に適した印刷用紙を選ぶ。(今回は光沢紙を使用した。)

—製本の手順—



・材料

印刷した写真 (表紙2枚、中身ページ)

工作用紙

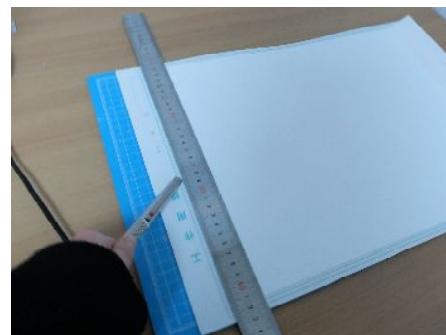
サンゲツの壁紙

・道具…定規、木工ボンド、カッター、カッターマット、木のへら、爪楊枝

—制作手順—

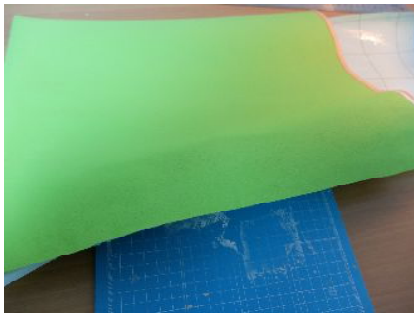
1、工作用紙を表紙と同じサイズに切る。

(2枚) 次に、背表紙の厚みに合わせて厚紙を細長く切る。

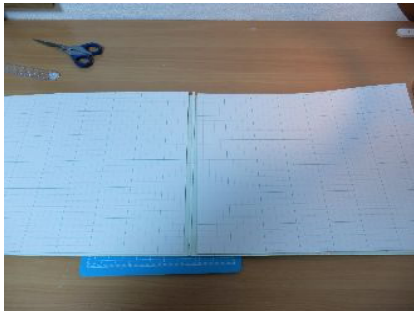


2、サンゲツの壁紙を、ポートフォリオを

広げた時の大きさに合わせて切る。(1枚)



3、サンゲツの壁紙の、のりがついている面を上にして置き、その上に工作用紙を木工ボンドで貼る。木工ボンドは、木のヘラで厚紙に均一に伸ばす。角や細かいところは爪楊枝で塗る。背表紙用に準備したサンゲツの壁紙を、背表紙に貼る。



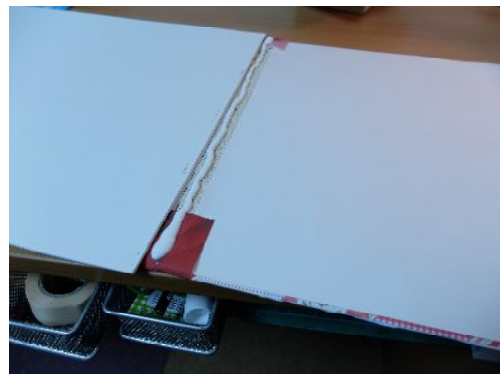
4、表紙と裏表紙になる写真の裏に、木工ボンドを塗り、サンゲツの壁紙の裏に貼る。



5、背表紙を貼る。



6、本を開いて、背表紙の内側に大量にボンドを貼り、中身のページを接着する。



7、すべて接着したら、ポートフォリオの上に辞書などを重石替わりにおいて、4時間ほど放置して完成！！

—窯業科工芸班のビーズ作品について—

・ビーズアクセサリーを身に着けた状態での撮影には、O.Rさん、S.Sさん、F.Yさんの3名に協力して頂いた。3名には、自身が制作した作品の中でお気に入りのものを選んで頂き、どのように撮影したら良いか希望を聞いて取り組んだ。

・O.Rさんは「自分で制作したビーズアクセサリーがきれいに見えるように、笑顔で身に着けているところを撮って欲しい」ということを希望された。写真を見たO.Rさんは、「きれいなビーズの組み合わせを選んで良かった、また作りたい」「また写真にしてほしい」と話された。

・S.Sさんは「ブレスレットで気に入っている3個を選んだ、身に着けている所を撮って欲しい」と希望された。S.Sさんは写真を見て、「私の作品がきれいに見える。次は職員に手伝ってもらいながら、今まで使ったことのない色で作品を作りたい」と話された。

・F.Yさんは「私が作った指輪を撮ってください」との事だった。F.Yさんは写真を見て、「指輪が小さくてかわいいですね」と感想を話された。

・2012年度から2013年度までのビーズ作品には、赤、黄、オレンジ等、明るく淡い色の作品が多かった。しかし現在は、黒、茶、深緑など、落ち着いた色の作品も制作しており、作品の幅が広がっている。工芸班のI.Mさんは、「売り物になるように色の組み合わせを考えて作りたい」との事だった。

—窯業科窯業班の陶芸作品について—

・M.Hさんは青い花器を完成させるまで、粘土の型と型どうしの接着に何度も失敗したが、あきらめずに取り組んでいた。

・窯業班のM.Hさんが写真を見た際、「僕の作品だ、これからも作品を作りたい」と話された。

・窯業班のM.Sさんが写真を見た際、作品を指さし「Sの、かっこいいね」と話された。M.Sさんは現在、今回撮影した作品を発展させ、違う種類の粘土を組み合わせた花器を制作している。M.Sさんは「ヒマワリのような色の作品を作りたい」との事だった。

7、研究のまとめ

・ポートフォリオのタイトルを「JOZAN WORKS 2012-2013」とした。(静山園窯業科の2012年度から2013年度の作品をまとめたため。)

・撮影した全部の作品に、作者さんのそのとき出せる力全てが詰め込まれていると思った。

・撮影を始めた2012年6月ごろは、ビーズや陶芸作品を見て、その作品の何を魅力に感じて魅せたいのか自分自身がよくわかっていないところがあった。

・利用者の作品の“できたことに着目”すると、その作品の持ち味や魅力を引き出せる写真を撮ることができた。

完成したポートフォリオは、2014年度の翠明荘様での展示や、販売の場面で活用した。展示会場では、作品を制作した利用者や、ほかの静山園の利用者でポートフォリオを見た際、「僕が写ってる」「誰誰の作品だ」等、皆さんで楽しみながら見る事が出来た。そのことが、利用者が自分の作品に自信を持つとともに、これからの作品制作への意欲付けになった。一部新聞社のかたにも、展示期間中に展示とポートフォリオを紙面にて紹介して頂いた。

特に力を入れたのは、窯業科窯業班のM,Hさんの花器の撮影だ。

2012年10月ごろ、M,Hさんは陶器の粘土の型と型どうしを接着するのに成功した。大変困難な技術だが、ほとんど亀裂なく焼成することが出来た。ウサギ型をつなげた隙間に、釉薬がたまっている様子が美しい作品となったので、その部分を強調できるような画面にしたいと考えた。この作品はM,Hさんの代表作になると思うので、複数ページにわたって魅せるようにした。M,Hさんは自身が制作した花器の写真にしばらく見入り、「次はモンスターボールを作って、赤と白の色を付けた陶器を作りたい」「箸置きを作って売りたい」と話をしており、これからの作品について、積極的に発言するようになった。

8、今後の課題

・中間発表の時、家庭科の作品を撮影してほしいという意見をいただいたので、また取り組みたい。

・これからはポートフォリオを2年に1冊程度、継続して作り続け、見返したときに作品が成長していく過程が見えるようにしたい。

また、ファイルにまとめるだけでなく、静山園の作業場にパネルにして展示し、作業場を美化し、利用者に楽しく、意欲的に制作して頂く環境作りをしたい。

・ポートフォリオを見た後、窯業班のM,HさんとM,Sさんから、次は自分たちの好きな色の釉薬で作品を作りたいという希望があった。現在、窯業班の作業場には、青、白、黒の限られた釉薬しかない。これからお二人が希望する色の釉薬を、窯業班の方々と協力して作り、さらに制作への意欲を向上させたい。

・自分が利用者の作品を見た時に、「こう展示したい」「こう見せたい」と思った作品は全部撮影して、自分が魅せたいことは魅せきったと思う。しかし、利用者に写真を見ていただくと、「また新しい作品を作りたい」「他のプレスレットを身に着けているところも撮って欲しい」と意見をもらった。これからも、利用者との意見を出し合いながら作品の魅せ方について考えたい。